

入山辺地区 市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
報告レポート

◇開催日・開催場所

令和4年8月29日(月)午後7時～午後9時30分
入山辺公民館 大会議室

◇入山辺地区テーマ

「住み慣れた地域で元気に暮らし続けていこう！！」

◇参加人数

29名(市長、発言者15名、傍聴者9名、関係職員5名)



◇「こんだん会」の流れ

- 1 市長あいさつ
- 2 意見交換者自己紹介
- 3 入山辺地区の概要
- 4 意見交換者からの発表
 - (1) こんな山辺にするじゃん会
- 5 意見交換
- 6 意見交換者からの発表
 - (1) 信州大学寄付講義「松本市の魅力発見ゼミ」
受講学生 3グループ
 - (2) 地区外、県外から入山辺地区へ引っ越しされた方

- 7 意見交換
- 8 フリートーク

◇「こんだん会」の内容

1 こんな山辺にするじゃん会の活動発表について

- ・平成23年に市政まちかどトークで市長と懇談し、地区の将来を危惧する思いを共有した当時の町会連合会や住民有志が中心となり、会を立ち上げた。
- ・入山辺地区の資源を洗い出し、取り組む柱を議論し、整理したコンセプトによりグループでの活動を展開。令和2・3年からは今一度地区の課題を洗い出して活動の方向性を討議している。
- ・これまでの成果として、松本大学から講師を招き、活動の整理をいただき具体的に取り組みたい内容が整理できたこと、地区の魅力を発信する基盤ができたこと、世代間の交流が生まれ、地区の人の輪ができたこと、豊富な人材が発掘できたこと、他地区の人の交流につながったことなどが挙げられる。
- ・今後の展開として、子どもたちへ向けた活動を展開し、住みやすい地域に誰もが希望を持てるように取り組みや40・50歳代の若い方の参加促進、そして地区全体や地区外へのさらなる活動展開を進めたい。

【市長コメント】

- ・会発足から10年の節目を迎え、積み重ねてきた活動をこれからどのように継続発展させるか、そして若い世代の参画、次の世代のリーダーの育成をどのように推進するのかを、地域の皆さんと一緒に考えていく必要性を感じている。

2 信州大学寄付講義「松本市の魅力発見ゼミ」の発表について

(1) 5班「松本市の魅力発見ゼミ グループプラン」

ア 入山辺の魅力

- ・「教育」:自然学習ができ、歴史を身近に学べる、素晴らしい環境がある。
- ・「食」:ぶどう等、新鮮で美味しい食材が豊富。

イ 取り組みの提案

- ・特産品を使った新たなイベントの開催(「ぶどうフェスティバル」)
- ・地域を発信する拠点づくり
- ・移住定住のパンフレットづくり

ぶどうふぁすていばる

夏ロゼやホットワインなど季節ごとに、ワインやぶどうジュースを楽しめるイベント。ぶどう休眠期には、ライトアップしたブドウ畑の下でディナーなど



イベントへのチャレンジ出店など、やってみたい人のきっかけづくり。

定期的イベントがあることで、新たに出店してくれた人のモチベーションに

移住相談会や、空き家斡旋など訪れた人たちが興味を持ったその場で、相談できるイベント開催。

学生が運営するマルシェ
；入山辺のワーク・アンテナショップ
を信州大学近くに



入山辺地区の農家さんと契約し、地区でとれた野菜や果物、ジビエを使った料理の提供

↓

店内での入山辺地区の狩猟の様子や農家のお手伝い募集の掲示板、地区の野菜直売など、地区を発信する場に

【市長コメント】

- ・信州大学の近くで入山辺の「食」を提供するアイデアは学生ならではの提案である。ぜひ実行できるように検討してほしい。
- ・勉強と両立しながら入山辺地区のサポーターとして、住民と一緒に考えて行動してくれることを期待している。

(2) 2班「入山辺地区の短期移住の提案」

ア 現状

(移住に関するアンケートの実施結果より分かったこと)

- ・移住したいが回答者の7割
- ・移住に月3万円以上支出しても良い人が多い
- ・移住する際に求めることは、近くにスーパーがあることその他、星空観察や森林浴など自然と関わる暮らしという回答が多い。

イ 入山辺の魅力(移住環境の視点から)

- ・温泉、多様な動植物との出会い、星空・夜景など、自然の中で暮らすことができる。
- ・車で松本市街地へアクセスしやすい。

ウ 取り組みの提案(「入山辺に住んでみるじゃんプロジェクト」)

- ・3日から1ヶ月ほどの期間の短期移住の受け入れで、料金は月6万円を想定。
- ・空き家を改装して活用することを検討。
- ・現地サポーターを設置するとともに、地域の方との交流を図る。
- ・追加料金で星空観察やぶどう狩りなど、地域交流プロジェクトを検討。

具体的な計画案

入山辺に住んでみるじゃんプロジェクト

- ・期間 3日～1ヶ月程度
- ・賃貸料金 月60,000円程度
- ・対象者 希望者

※滞在前日の抗原検査 原則
現地サポーターをボランティアで募集

今後の展望

- ・できた計画案について対象を絞りアンケートをとる
- ・シェアハウスとしての短期移住(コロナ収束後)
- ・「入山辺に住んでみるじゃんプロジェクト」と並行した地域交流プログラム(追加料金システム)の検討
(例) ぶどう狩り、星空観察、BBQ 等

【市長コメント】

- ・入山辺地区の皆さんがどのような方にターゲットを絞って移住を進めたいのかを地域の実情を踏まえて検討してもらいたい。
- ・移住希望者がどのような条件ならば移住したいのかについて、アンケートでデータを収集し、大学生にも関わってもらい、移住の需要の掘り起こしをきめ細かく進めてもらいたい。

- ・入山辺地区で住まいの提供につながる可能性のある空き家を把握し、入山辺版の移住プランを、地域の皆さんに掘り下げてもらいたい。それをもとに市としての関わりを検討していきたい。

(3) 7班「入山辺を盛り上げよう」

ア 現状

- ・耕作放棄地がたくさんある一方で、市民農園の需要が大きいこと
- ・空き家がうまく利用されず、放置されてること

イ 入山辺の魅力

- ・ぶどうや高原野菜などの特産物がたくさんある
- ・地域内のつながりの深さ

ウ 取り組みの提案

- ・空き家付きの農地の貸し出し
- ・特産物であるぶどうを視覚的にPRするイルミネーションの実施

◎ 私たちの目指す入山辺の姿

- ・入山辺地区をもっと多くの人に知ってもらいたい
- ・特産品をさらにアピールしたい
- 入山辺に足を運ぶ人の数を増加させたい
- =入山辺を知る人が増える
- 入山辺に移住したい・暮らしたい人を増やす



◎ 期待される効果

- 〈提案1〉農地や田んぼを貸すこと
 - 初めての人でも農業に挑戦しやすい環境を作る事ができる
- 〈提案2〉イルミネーションを実施
 - 入山辺地区をPRすることができる

地域に入って地域内のつながりの深さを感じてもらおう
→移住につながるのではないかと

【市長コメント】

- ・入山辺で住まいと農園をどう組み合わせ提供できるかは、突き詰めていく価値がある。
- ・県内の出荷額がトップであるぶどうについて、食だけでなく、それ以外のブランドを活かして、多面的な取り組みを展開するチャンスが来ている。若い人の感性を取り入れながらブランドを活用できたらと思う。



3 地区外、県外から入山辺地区へ引っ越しされた方の話について

(1) 大仏・一の海町会へ移住された方の話

ア 移住のきっかけ

- ・家を探しに来た時の入山辺の景観、市街へ帰る際に北アルプスの眺めが素敵で入山辺への移住を決意した。

イ 移住して感じたこと

- ・コロナ禍で東京から「移住することに不安があったが、住民の方が温かく迎えてくれたことが印象に残っている。
- ・入山辺地区は星や天体の観察が肉眼でできる環境にあることや薄川の状況と山の天候の関係、身近に動物の観察ができることができ、都会では経験できないことが体験できる教育移住に最適な場所と実感している。

【市長コメント】

- ・なぜ松本および入山辺を移住先に選ぶのかという最後の決め手は、景観・気候・風土なのかと思う。
- ・移住するには住まい等のベースがしっかり整わなければ難しいが、ベースが整えられれば移住に向けた小さな行動の積み重ねが意味をなしてくる。

(2) 上手町町会へ移住された方の話

ア 移住のきっかけ

- ・大学の卒業研究で入山辺地区の地域づくりを研究し、卒業後も大学の地域総合研究センターの研究員そして、松本市の地域インターン事業に参加し、入山辺の魅力や課題を知った。その折に、地域の方から空き家を紹介してもらい、人生をかけて課題に取り組み、地域の役に立ちたいと移住を決意した。

イ 移住して感じたこと

- ・入山辺の課題として、車がないと日常の生活がままならないという交通の問題、有害鳥獣による農業被害が深刻であるという問題がある一方、地域の住民同士のつながりが強く、誰にも優しい地域性を感じる。
- ・地区の魅力や課題を信大生など若い人へ伝えていきたいと考え、ハンティングスクール等でアウトドアの魅力を発信するとともに、住んでみたい人への空き家の紹介など、活動していきたいと思う。

【市長コメント】

- ・いろいろなスキルを持って、地域の皆さんの役に立ち、課題に取り組むと同時に、それを仕事として収入を得るライフスタイルは、現在成り立ち始めている。このようなライフスタイルを若い世代へ広げてもらいたいと思う。
- ・地域の交通手段として、どのように地域バスを持続的で少しでも利便性のあるものにすると同時に、電動アシスト付き自転車の活用促進など、広い視点で事にあたる必要がある。

4 フリートーク

(1) 地区の子どもの置かれている状況について(木下 連合町会長)

主任児童委員の任期の間、地区の子どもは年間5.8人生まれている現状。福祉ひろばのミニキッズの活動に携わっており、参加する子どものお母さんが活動を計画しており、地域で子どもを見守り育てる場になっている。一方で地区に住む未満児は入山辺保育園に通えず、他の保育園に通っている現状を知っていただきたい。

【市長コメント】

- ・全市的に地区外の人口が増え、子どもが増えると、保育の希望が重なり希望通りに入園できない場合が多く見られる。超少子化が進む入山辺地区で、兄弟が同じ保育園に通えない実態は解消しなければならない事案である。
- ・福祉ひろばに若い世代が立ち寄らない問題は市内全体で共通する問題であり、ミニキッズの取り組みはそれを改善する好事例である。

(2) 高齢者の生活の実態について(朝倉 民生児童委員協議会長)

地区の高齢者が農業を営み、生活を送るうえで、車は欠かせない。地区では、そのような現状から、福祉ひろばの送迎ボランティアを立ち上げ、高齢者の支援を行っているが、支援する側も送迎運転することに不安を抱いている現状がある。

また、配食・宅配のサービスが地区内では利用できない状況にある。サービスの利用についてイベント時にアンケートをとったり、サービスを提供できる事業者を探している。

【市長コメント】

- ・深刻な問題と考えている。輸送・配送サービスは一定規模の人が集積してはじめてサービス提供が可能になる。入山辺だけでなく、少し広い範囲で考えて利便性のある仕組みが必要と考える。

(3) 生活道路の雪かきの現状について(百瀬 子ども会育成会長)

通学路や高齢者の家の前から幹線道路までの生活道路の雪かきを役員等限られた住民で行っている。老老支援となっている現状である。

【市長コメント】

- ・幹線道路は市が除雪を行うが、支線・生活道路は都合の合う若い人に参加してもらう方法がある。スキームとしては、松本市で条件の合う人をピックアップして、住まいの近い場所での雪かきをお願いするというもの。老老支援は雪かきだけに限らない問題である。

5 まとめ

(1) 市長コメント

- ・参加された学生の皆さんには、今後楽しみながら実践に参加してもらい、参加者の輪を広げ、地域の将来の目標に向けて何らかの関わりを模索してほしい。
- ・今日いただいたご意見については、1歩でも2歩でも改善できるように、センター長や地域の皆さんと情報交換を進めていきたい。



(2) 連合町会長コメント

- ・市長から具体的な話をいただき、一番心に残ったのは、生き方や価値観の問題が移住に関わってくることである。入山辺をどのようにしていきたいのか、何を求めてやっていくのかによって、地域の人々の生き方が変わると感じた。
- ・学生の皆さんが真剣に考えてもらったことを具体的に一緒にやってみたいなど思った。